

市長 藤本さんはどうして京都移住コンシェルジュをすることになったんですか？

藤本さん(以下敬称略) 私の場合は暮らしているよりもこの仕事をしたかったからです。この仕事は面白いのは移住支援を通じて地域の人にも会い、悩み、移住希望者にも会います。移住は暮らし面や「ミニマニティー」、仕事など全てが見付からないと進まないで、人生の転機を支援するのは難しいけれども一番面白い仕事じゃないかなと思って選択しました。それに東京で3年間やりきった感があり、学生時代に過ごした京都に戻ろうと思ったんです。

市長 地方があつての都会だったのに、今人口が減って地方が危機に面しています。人と人のつながりを大切にしながら、都会の利便性も同時に合わせ持っている「便利な田舎」を残さないといけないと思ってるんです。

岡山 私も都会と田舎のいいところ取りができるなと感じています。夫は大浦の佐波賀地区でカキを養殖していますが、自分たちでウェブサイトをやって、お客さまに直送しています。発送日当日に水揚げし、生きたままお届けしています。初めて生きたカキを食べたと言われる人も多くて好評です。

市長 私は子育てや田舎暮らしをマンガにしてインスタグラムでほぼ毎日発信しているのですが、9万人近くの人が読んでくれています。舞鶴に住んでいても全世界に発信できるので、「ここでの生活や京都にも海があるんだ」ということを知ってもらいたいことができます。

藤本 都会と田舎の両面を持つまちはいいですね。都会で便利な暮らしをしている人がいきなりどこか別の場所に移るのは結構ハードルが高いです。それなりの利便さと不便さを兼ね備えて、ハードルが高過ぎず低過ぎずみたいなまちは紹介しやすいですね。

市長 舞鶴は魚や野菜などおいしいものがいっぱいあるし、都会にある環境もかなり整っています。また、子育て交流施設「あそびあむ」をついたり、公立こども園の整備、中学校の給食や小中学校のエアコン完備など。乳幼児教育も最先端で子育て環境にはすごく力を入れてきました。

岡山 やっぱ子育て環境というのは移住する時のキーポイントですね。

藤本 移住者を大きく分けると、20〜30代の地方で仕事を基本にして何かしたい人、20〜30代の子育ての環境も含めて田舎で暮らしたい人、40〜60代の第2の人生を田舎で過ごしたい人の3つだと思っています。子育て環境がこれだけハード、ソフト面で整備されているのはすごく安心される要素だと思います。

市長 地方が生き残るためには、まちに対する愛着と誇りがないとだめです。「こんなまち…」という表現をしていたら若者はどんどん出て行ってしまつて、舞鶴が「こんなまち…」って言われるようなまちなのか、と聞くと、そうではないと思います。魅力も資源もいっぱいあるのに、「ここに生まれた人は慣れてしまつて気付いていない。」

岡山 言いますねえ。「何もなし」って、舞鶴っていろいろあるなと思えますけど、魚介類はもちろん、かんきつ類もおいしいですし、自然はあります。

市長 それを聞いた子ども達も「何もなし」と思っているのが残念です。

藤本 東京のイベントでよく話をするのが、都会では何万分の1、何十万分の1の存在なのがちよっと地方にいくと何十分の1、何百分の1になる。1人ひとりの顔が見える中でやっていると、かどつちがいいのか、問いかけています。

岡山 舞鶴でカキの通販をするという話をしたら、「こんな田舎でそんなことをしても東京の人は



新春対談



便利な田舎

新しい時代の田舎暮らし

岡山茉莉さん

埼玉県出身。夫のUターンに同行し、埼玉から舞鶴市に移住。インスタグラムでフォロワー数約9万人の漫画家「まりげ (marige333)」さんとしての仕事もこなす。投稿を書籍化した「たのしいことを拾って生きる。～まいにちいろいろ、家族ドロップス～」はネットや市内の書店などで販売中。現在は3児の母として子育てにも奮闘中。

岡山さん(以下敬称略) 友人が誰もいない環境は「大丈夫かな」と思いました。でも、実際に来てみると、子育て世代とは「あそびあむ」などで出会いますし、そんなに閉ざされた環境ではないなと思いました。1人ぼっちという感覚にはなりませんでした。

藤本和志さん

広島県出身。大学卒業後、東京で大手人材会社の新卒採用を担当。退職し、京都へ。現在は株式会社ツナグムに所属し「京都移住計画」や京の田舎への移住支援「京都移住コンシェルジュ」として「居職住」で新たなライフスタイルづくりを行う。また、地元や地方(全国)での新たな働き方や生き方の価値をつくる「ミツカル meetslocal」のプロジェクトを立ち上げる。

私たちにとっての移住定住

市長 私は、人口が減っていくからといって、移住してほしいとは思っていないんです。地元の人たちが住みやすいと思わない限り、よそから来てくれるとも思っていない。都会の暮らししか知らない人たちに、田舎では広い所ですつたりと暮らせるし働くところもある。休日には都会に行くかと思うと1時間半もあれば行ける。「田舎で暮らしてみませんか」と提案していきたいと思っています。

岡山さん 移住するにあたって不安はありませんでしたか？

岡山さん(以下敬称略) 友人が誰もいない環境は「大丈夫かな」と思いました。でも、実際に来てみると、子育て世代とは「あそびあむ」などで出会いますし、そんなに閉ざされた環境ではないなと思いました。1人ぼっちという感覚にはなりませんでした。

買わないって」って言われたんです(笑)。でも、東京の人は築地とかの値段が基準なので、食べて納得の価格だから高いとは思わない。東京では新しいことを始めても、次の日にはもう違うことが始まるから関心がすぐ移る。でも、舞鶴から発信することが逆に目新しさがあるというか、あえてこの場所でするってことが面白いと取材してもらえたり。それは田舎のメリットなんだと思っています。

新しい時代の田舎暮らし

市長 ビニールハウスの温度を管理して収穫量を上げるとか、定置網漁であれば人工衛星を利用して海

岡山 そうですね。SNSの活用とかインターネットに苦手意識を持っている人が多いのもつけないと思えます。

市長 高く売れる販路を見つけて、高く売れるためにどう加工するのかを考える時期。発想を転換して付加価値を付ける。